

# スクラムを組んで!

# 青少年健全育成

寄居町青少年健全育成町民会議（矢部伸昭会長）では、青少年健全育成を広域的、総合的に推進するため、町内関係団体および機関とともに活動を展開しています。日々の活動から感じたことなどを、それぞれの立場からメッセージとしてお寄せいただきました。

問い合わせ／生涯学習課（☎581・2121内線532）へ。

## 善意の行動「川活運動」に期待する



寄居町青少年健全育成協議会会長  
矢部 伸昭

私はこの夏、さいたま市で行われた埼玉県コミュニティ協議会の総会で、中学生たち

による思いやりあふれる善意の活動を知り、心を打たれました。冒頭のあいさつで、上田知事は「これから川活運動（当たり前前のことを当たり前に行動すること）を埼玉県に広めていきたい」と話されました。

この「川活」という新しい言葉のネーミングは、昨年1月、毛呂山町の川角中学校2年生が修学旅行で利用した東

海道新幹線を降りる際、お互いに協力して車内をきれいに清掃した行為がきっかけでした。生徒たちが降りた車内は、きちんとシートカバーが整えられ、床に落ちた菓子クズも片付けられていました。新幹線の車内清掃をする女性職員は、ゴミ一つ残っていない見事な清掃ぶりにとっても感激して、感謝の手紙を学校に出しました。この手紙を受け取った生徒や先生たちは「当たり前前の行動が人の感動を生み、私たちが幸せな気持ちになれた」と感激したそうです。

そのニュースは新聞やエッセイ等に掲載され、全国的にも大きな話題となりました。学校には、全国から電話やメールがたくさん寄せられました。中には、中国在留の日本人から「ホットな話題に感激している」など、うれしいメールも届きました。

と名付け、さらに大きく育てていきたいと、力説されました。このような身近にある小さな善意の行動に、気付くことも、また評価することも大切だと思います。今後、この埼玉生まれの「川活運動」が、県内はもちろん全国的にも大きく広がっていくことを強く願っています。

## ふたを開けて「愛情」



桜沢小学校校長  
清水 政晃

昔、カレーのコマーシャルで、ふたを開けて鍋の中に「愛情」と叫ぶものがありました

した。おいしいカレーも、あと必要なのは「愛情」という話です。

私は、家庭教育と聞くと、よくこのコマーシャルを思い出します。それは、家庭教育と似ているからです。

学校教育は、数十の法規と条例により各種の制限が加えられ、指導内容や時間まで決められています。そして、何より国により採択された教科書により日本全国ほぼ等しく

教育を受けられるようになっていきます。さらに、それを教える教職員は教員免許状がなければ教えるならないことになっていきます。

また、生涯学習では、学校教育のような細かい制限はありませんが「生涯学習振興法」や「社会教育法」等により、法の縛りの中で教育活動がなされています。

では、家庭教育はどうでしょうか。家庭教育に法律はありません。教科書もありません。そして、親になるのに免許状も必要ありません。

家庭教育にあるものは家族の深い「愛情」だけです。そして、子どもたちにとって最も必要なのが、この家族の「愛情」です。

教員を長くしていると、問題行動を起こす子に出会います。子どもですから悪さも学習の一つかもしれません。そのようなとき、家庭で「愛情」という支援のある子どもは反省したり、そのことをきっかけに自分を大きく成長させたりもします。しかし、支援のない子どもは、エスカレートしていくことが少なく

ありませんが、学校や地域社会からの「愛情」を感じ、立ち直っていく姿もあります。子どもたちの優しさ、素直さなどは子どもを取り巻く家庭や学校、地域社会の深い「愛情」で育まれるのではないのでしょうか。

寄居町の子どもたちに、家族のみならず学校や地域で温かく「愛情」を注ぎ込み、健全育成が果たせることを願っています。

## 気付こう、変わろう!



城南地区児童生徒健全育成協議会会長  
相根 英俊

日ごろ、城南地区をはじめ、寄居町の皆さんには、児童・生徒の健全な育成につい

て多大なご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。この場をお借りして、心より感謝します。

青少年の皆さんがもっと高く、もっと大きな志を持ってそれに情熱を注ぐことができれば、自ずと非行から離れていくものと信じています。スポーツ、武道、音楽、その他の文化的活動に熱中することができれば、

しかし、残念なことに現代

社会はさらに複雑になり、価値観もさまざま、ただ単に何かに打ち込んでいればもう大丈夫というものでもありません。

青春期は多分な力を持って余し、横道に逸れた行為をしてしまうことがあります。例えば、私の友人の一人は中学生のころ、先生方も手に負えないようなワルでしたが、今では人気の生け花の先生をしています。他にもこんな方がいます。高校を中退し、ニートになり、何の目的もなく仲間とコンビニにたむろし、ポテ

トチップスとジュース、ゲームセンターで時間をつぶす。そこしか自分のアイデンティティはなく、行き場もなかった。そんな彼も「これじゃダメだ!」と気付いて、商売を始め、成功し、立派な会社を経営しています。

私たちも含めて大切なのは「気付く」こと。そして行動を変えれば結果も変わる。ダメだった自分もプラスに変えて、さらに自分の器を大きくすることがあります。

城南地区児童生徒健全育成協議会には常に子どもたちが子

どもらしく、また、寄居町で安心して生活できるように活動を続けていきたいと思っています。今後ともご理解ご協力をお願いするとともに、今年度一年間のお礼を心より申し上げます。

